

平成20年度 学校自己評価システムシート (県立 春日部 高等学校 全日制課程)

目指す学校像	希望の進路を実現する確かな学力の定着と部活動の充実発展を目指す
--------	---------------------------------

重点目標	1 学習意欲を高め、授業に真剣に取り組む態度を確立し、学力の向上を図る。 2 学校行事、部活動、生徒会活動などに積極的に参加するとともに、基本的なマナーを身につけ、礼儀正しく、品位ある言動ができるようにする。 3 学校の課題解決に向け、教職員の参画意識を一層高め、組織としての機能の強化を図るとともに、開かれた学校づくりに取り組む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 2 6 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 2 6 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	誠 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	教育課程の工夫や6.5分授業、土曜授業などにより充実した指導に努めている。大学体験授業・模擬講義などにより、生徒の学習意欲を高めている。 取組の成果を検証し、教員の指導力の向上、更に効果的な指導方法の工夫・改善を図ることが課題である。	①生徒の授業満足度、教員の工夫・努力 ②進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業アンケートの実施(年2回) 教員の指導力の向上 管理職による授業参観の実施 生徒の意欲を高め、授業に対する集中力を向上 新入生に対する導入期指導の充実 シラバスの改善 	<ul style="list-style-type: none"> 授業満足度が前年度を上回る。 教員が指導力向上研修へ積極的に参加する。 教員一人あたり最低年1回授業参観を実施する。 現役合格率を維持するとともに、難関大学への合格者数を増加させる。 入学後早期に、学習習慣や人間関係づくりのためのオリエンテーション合宿を実施する。 より活用しやすいシラバスになるよう見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業満足度は、ほぼ昨年と同様であった。 長期休業等を利用して多くの教員が予備校等で研修した。 校長が全員の授業を参観した。 難関大学への合格者数を増加させることができた。 1年生は例年になく活発なクラスが多く、オリエンテーション合宿は、早期の人間関係づくりに大きな効果があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教材や指導方法をさらに工夫し、効果的な授業の実践に努める。教員相互の授業公開に向けて準備を進めている。 文武両道の春高教育実現のため、学校生活全体における生徒のモチベーションの向上を図る。 シラバスの改訂を行う。
2	多くの生徒は、学校行事や部活動などに積極的に取り組み、大きな成果をあげている。 一部の生徒であるが、交通マナーや他人への配慮に欠ける生徒がいる。	①勉学と部活動の両立ができる生徒の育成 ②保護者や地域住民からの意見等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲の喚起 勉学と部活動との両立を図るための、時間の有効な使い方の工夫と指導 春高教育についてのアンケートの実施(年1回) 日常的な指導に加えて、生徒集会等における講話などによりモラル意識の向上 登校指導等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率が前年度を上回る。 活動の成果として、5つ以上の部活動が関東大会以上に出場する。 「満足していない」の回答の割合が前年度を下回る。 モラルやマナーの向上が図られたか。 定期的な指導と状況に応じた指導を効果的に組み合わせ実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 加入率は、運動部 68.0%、文化部 23.4%、全体 91.4%で、昨年を上回った。 6つの部活動(陸上、バスケットボール、弓道、書道、美術、物理)が全国大会に出場できた。 生徒、保護者とも「満足していない」の割合が前年度を下回った。 登下校時の交通ルール遵守、駅や電車の中でのマナー、あいさつの励行などおおむね良好であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動部の加入率が上昇、文化部の加入率が低下した。また、特定の部に集中する傾向がある。文化部を活性化する方策を工夫する。 指導の効果を維持し、モラル意識の向上にまで高める方策を工夫する。
3	教職員は個々の力量を十分に発揮しているが、組織として取り組む点で不十分なところがある。 学校評議員や学校評価懇話会からいただいた意見をもとに、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	①組織的な取組 ②学校評議員や学校評価懇話会からの意見を学校運営に反映	<ul style="list-style-type: none"> 学年や分掌の連携の強化 積極的な授業公開 HPを活用した学校情報の提供 学校評議員等からの意見を迅速に学校運営に反映 	<ul style="list-style-type: none"> 引継ぎや改善が確実になされているか。 授業公開を年間5回以上実施する。 HPの速やかな更新と内容の充実を図り、昨年度を上回るアクセス件数を確保する。 学校評議員等からの意見を企画委員会において速やかに検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価システムシートに連鎖した学年・分掌シートが初めて作成できた。 計画通り授業公開を実施し、中学生やその保護者の学校への理解が深まった。 HPは、情報を更新するたびにアクセス件数が増加し学校の重要な情報発信源とすることができた。 学校評議員からの意見を踏まえた学校運営ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員相互、分掌や学年間の連携が強化されてきており組織力の向上が図られている。学年・分掌シートの更なる活用を図る。 更に利用しやすいHPに改善するとともに、こまめな更新を行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成21年1月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートには様々な効果がある。結果等をより多くの生徒に周知するよう、さらに工夫してほしい。 教員が予備校に授業方法の研究に向いていると聞いて驚いた。 現役合格も大切だが、そのために満足できない進学先を選んでしまう生徒が出てきていないか。行きたい大学に行くという進路指導もこれまで同様進めてほしい。 オリエンテーション合宿は続けてほしい。 文武両道を目指した教育だからこそ、社会に貢献していく意欲と能力を兼ね備えた人材を輩出することができる。 現在のシラバスは、使いこなすことが難しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 部活動や生徒会活動などにおける人間関係の中で生徒を育て、人格を高め学業成績を伸ばすのは、素晴らしい指導法であると確信している。 文化部の加入率を上げる何かよい方策はないか。新聞部の復活を強く望む。 生徒、保護者のアンケートの回収率の高さに感心した。また、学校への満足度が生徒、保護者ともに高いのは素晴らしい。 地域に貢献するボランティア活動なども検討してみたい。 悩みを抱えている生徒もいるので、専門的なカウンセラーが配置されるとよい。 	
<ul style="list-style-type: none"> HPが大変充実しており、学校に関心のある者にとって素晴らしい情報源となっている。 学校評価懇話会の委員が、実際の授業や普段の先生・生徒の様子を見る機会があるとありがたい。 	